

(第3種郵便物認可)

一栄 蔦谷の 異見 私見



地球を危機に追いや
つている現代人の生き
方や現代社会のあり方
等について深い次元か
ら見直しを迫る「アナ
スタシア」なる不思議
な本に出合った。最
近、シベリアの森林地
帯に足を運んできた千
葉県に住む敬愛する農
家ひとりが電話で、延
々と広がる豊かな森に
感動し、森・川・海が
一体であることをまぎ
らげに感じてきた話と
あわせて、「アナスタ
シア」は読んでみた。ま
だなら是非読んでみて
ほしい」と強すすめ
てくれたものである。
日本では現状、5巻ま
で発行されており、早
速入手して読んでみ
た。世界では25か国語
で出版され、シリーズ
累計で1100万部を
突破しているというか
ら驚きだ。
本書の中身を手短に
まとめて紹介すること
は至難のわざである
が、おそろしくサイ
クシヨンド、ロシアの
実業家ウラジミール・
メクレが、ソ連が崩壊
して間もない1994
年に通商のためオビ河
を船で廻り、タイガの
森深いくらまでまった
くの自給生活をしてい
るアナスタシアと出会
い、そこで過ごした3
日の間に見たり聞いた

りしたアナスタシアの
生活ぶりや語る話を綴
ったものが基本となっ
ている。メクレはアナ
スタシアとの出会いに
よって生き方や価値
観、人間としての存在
意義を大きく揺さぶら
れることになるとも
に、アナスタシアが語
る話をメクレは本にま
とめて出版することを
約束して町に戻る。自
らの会社は倒産し、家
族は絶縁状態、自殺
寸前にまで追いやられ
るが、たまたま出会っ

アナスタシア

た人の好意で自費出版
された本は、ロコミに
よって瞬く間に広がっ
ていく。こうした一連
の経過を縦糸にして、
文明論、教育論、未来
論、宗教論等々、実に
深い次元でのアナスタ
シアの話が横糸となっ
て紡がれる不思議、か
つきわめて興味深い本
となっている。その核
心を「私はアナスタシ
アを通して、幸せと
は、お金でもなく、愛
でもなく、明晰性によ
って得られるのだ」と
改めて感じた。明晰性

とは、自分の感情や価
値観、経験、そして社
会通念にとらわれるこ
となく、物事があるが
ままに、そのものの姿
を観察できる力のこと
だ。つまり、宇宙の眞
理や法則をまぎらなく、
より深くクリアに理
解することだと思っ
て本書の監修者は記し
ている。
アナスタシアはター
チュニク(ロシアでは
都会に住む人たちの多
くが小屋つきの農園で
あるターチャヤを持っ
ているが、そのターチャ
ヤを利用して人が
「人々を飢餓から救
い、人々の魂に良き種
を蒔き、未来の社会を
豊かにしている」と固く信
じている。そして「ター
チヤの菜園で土いじ
りするとお気分が
よくなって、そのおかげ
で多くの人が健康にな
り、長生きしてきた
し、心も穏やかにな
る。技術優先主義で突
き進む道がいかに破滅
的かを社会に納得させ
る、その手助けをする
のがターチュニクのだ
としている。地球の未
来は国民皆農・市民皆
農にかかっており、さ
らに希望する各家庭に
1畝の土地を割り当て
ることによって、ロシ
アから美しく幸せな社
会が構築されていくこ
とになる」と、預言、
を述べている。
ロシアの動向が大い
に注目されるだけでな
く、我が国でも国民皆
農が社会変革の力まで
あり、この取組みを急
ぐことが本質的に嚴重
要で喫緊の課題である
ことを示唆している。
(農的社会学サイエンス研
究所代表)